

第10章 えりも岬

伊波知恵

10.1 えりも岬

10.1.1 えりも岬の概要

日高振興局管内にあるえりも町は、風速 10m 以上の風の吹く日が年間 290 日以上もある地帯に位置するえりも岬がある。日高山脈南部のため、沖合いまで 7km もの岩礁がつづき、岬の周囲は高さ 60m に及ぶ断崖となっており、三段に及ぶ海岸段丘が発達している。岬上のえりも岬灯台は海拔 73m、光達 22 海里で、1889 年に初点灯した。暖流の黒潮（日本海流）と寒流である親潮（千島海流）とがぶつかる沖合いのため霧が発生しやすい。

気候は最高平均気温が 9 月でも 16.4℃と、北海道のなかでも一番夏が涼しい地域のひとつであり、春と夏は特に濃霧が発生する。

図 10-1 えりも岬



出所：北海道ラボ HP

表 10-1 えりも岬の気候の変化（1981-2010）

要素	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	日最高気温 (℃)	日最低気温 (℃)	平均風速 (m/s)	日照時間 (時間)	降雪の深さ合計 (cm)	最深積雪 (cm)
統計期間	1981～2010	1981～2010	1981～2010	1981～2010	1981～2010	1988～2010	///	///
資料年数	30	30	30	30	30	23	0	0
1月	29.4	-2.0	0.1	-4.3	9.9	140.6	///	///
2月	17.3	-2.5	-0.5	-4.7	9.0	161.9	///	///
3月	37.8	-0.3	1.8	-2.2	8.7	196.7	///	///
4月	60.4	3.3	5.9	1.1	7.6	186.0	///	///
5月	100.7	6.9	9.8	4.7	7.3	174.1	///	///
6月	85.1	10.6	13.1	8.6	7.0	121.9	///	///
7月	130.8	14.7	16.9	12.8	6.6	92.1	///	///
8月	125.0	17.5	19.8	15.6	6.5	115.0	///	///
9月	128.8	16.4	18.5	14.5	7.3	153.4	///	///
10月	104.4	12.2	14.5	9.9	8.2	173.3	///	///
11月	83.1	6.5	9.1	3.9	10.2	124.1	///	///
12月	45.2	1.0	3.3	-1.3	10.6	118.5	///	///
年	957.1	7.0	9.4	4.9	8.2	///	///	///

出所：気象庁 HP

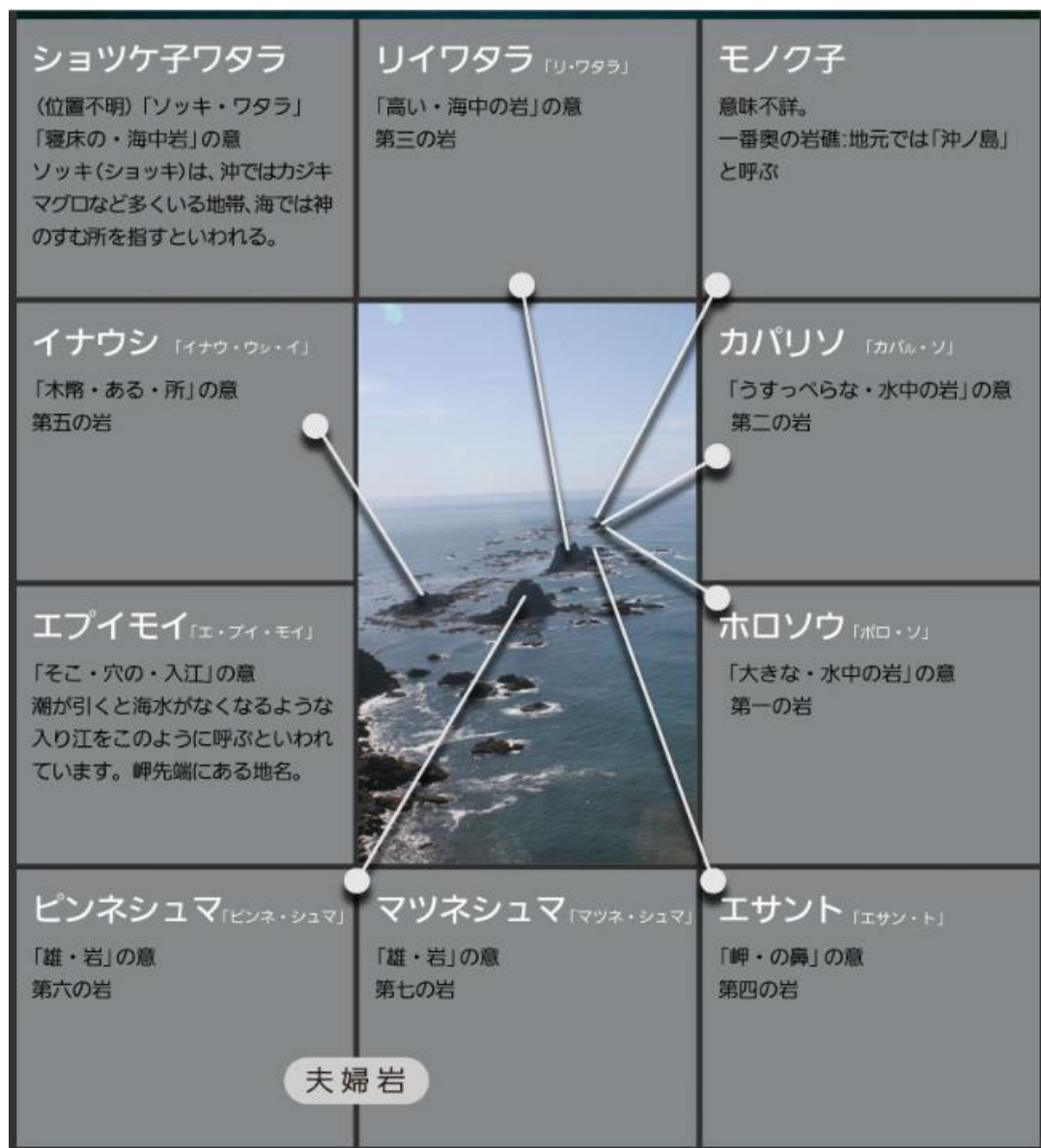
10.1.2 えりも岬とアイヌ

アイヌは、北海道・樺太・千島列島およびロシア・カムチャッカ半島南部にまたがる地域の先住民族である。擦文文化やオホーツク文化など、北海道に元々あった文化を継承してアイヌ文化が生まれた。本州では農耕の文化が始まっていた中、アイヌでは狩猟採集が主であったが、13～14世紀になると和人と貿易も行われ、農耕も始まるようになった。15世紀になるとアイヌと和人の間で争いが生まれ、勝利した蠣崎氏を祖先とした松前藩はアイヌとの交易を独占し、アイヌから乾燥鮭・ニシン・獣皮・鷹の羽（矢羽の原料）・海草や清からアイヌに伝わった衣服（蝦夷錦）などを輸入し、鉄製品・漆器・米・木綿などで支払っていたが、1669年のシャクシャインの戦い後には、交易はアイヌにとって不利な条件となった。江戸幕府はロシアからの軍事圧力に対抗して蝦夷地を幕府直轄地とした。

「えりも岬」はアイヌ語のオンネエンルムが語源である。「オンネ」は大きい、「エンルム」は突き出たところ、つまり岬を意味している。また、「エルム」は鼠を意味し、遠くからえりも岬を望むと鼠が伏せているような形に見えるように突き出ていることに由来しているといわれる。同様に岩礁の名前もアイヌ地名がある。図 10-3 を見てもわかるようにアイヌとえりも岬には深い繋がりがあり、現在の暮らしにもアイヌ文化が活かされている。

また、えりも岬はアイヌの聖地であり、江戸時代にはえりも岬を旅した和人が多くの記述を記した。

図 10-2 えりも岬のアイヌ岩礁名



出所：アイヌとエリモ 襟裳岬 HP

「エリモ岬ではアイヌはイナウ⁵を立てて神酒を供える。」（木村謙次,1799,「蝦夷日記」）

「船乗り、水主らは、とてもここ（えりも岬）を難所として、沖を航行しえりも岬を通過する。また、アイヌはここ（えりも岬）を通る時はイナウを削り納めて通過する。」（松浦武四郎,1845,「蝦夷日記」）

「モノク子（岩礁帯先端部にある岩礁）（略）等を名づけてアシキ子イショウという。その意味は5つの岩ということである。実に海中から5つ並んで突出して、眺望は表現できないくらいだ。ここに昆布が多く生えているが、アイヌなどはエリモさまのおひげだとして、昔から採取することはない。」

「名儀、鼠の儀、此岬遠くより眺む時、鼠の伏たる如き也と、本名ランネエンルムと云。」（松浦武四郎,1858,「戊午東西蝦夷山川地理取調日記」）

などと、コンブ生産を余儀なくされたアイヌが、神聖な地域でのコンブ採取を行わなかったことなどが記載され、えりも岬が神聖なものであったことがわかる。

また、ここでアイヌから伝えられた神話を紹介したい。

えりも岬の語源はアイヌ語の鼠に由来するといったが、実際に昔岬一帯に棲息していた多数の^{ねずみ}白鼠により成ると、伝えられている。えりも岬に和人が移住しはじめた頃、古くから岬に住むアイヌ人、エリモミーランドという者が、ある日、岩の上を飛び交う白鼠にまたがった十一面大菩薩の姿に偶然出くわした。それから度々、大菩薩のお告げを受けるようになったミーランドは、ある日、家の前の岩場に白鼠に乗った大菩薩の御尊像が流れ着いているのを発見した。大変喜んだミーランドは、御堂を建て熱心に信仰し、その岩を神威岩と称し、しめ縄を張り「聖所」として奉り、子孫のエリモシローに受け継いだ。シローが12歳の時、一商船がえりも沖合で濃霧と時化に遭い、「襟裳様」に祈願したところ、十一面大菩薩が現れ、程無く時化が静まり、難破を逃れたといわれている。1814年、渡島の嶋屋佐兵衛という者がえりも岬の突端に神社を建立し、船中安全無難漁業自在自體健康を祈願し、御尊像は今も、大切に奉安されているらしい。

図 10-3 襟裳大菩薩と白鼠



出所：郷土資料館 「ほろいずみ」・水産の館

⁵ アイヌの祭具のひとつ。人間とカムイや先祖の間をとりもつ供え物としての意味合いが強い。

10.1.3 緑化事業

今から約 300 年前、アイヌの人々が居住していたえりも岬には、海藻類魚介を求めて、すでに和人が移住していた。この頃のえりも岬にはカシワやミズナラ、ハルニレなどを主とする広葉樹の原生林で覆われていた。厳しい気象条件の中でも、これらの森林が大地に広がり、人々の生活に潤いを与えていた。しかし燃料としての伐採、馬や羊の放牧地のための開拓、バッタの大量発生による被害などで原生林は傷つき、さらにそこはえりも岬特有の強風にあおられ、急速に砂漠化が進んでいった。

豊かな緑に覆われていたえりも岬は、明治～大正～昭和にかけて荒廃が進んだ。樹木ばかりか雑草さえ生えなくなり、表土が露わになった禿山からは、えりも岬の過酷な風によって赤土（赤褐色の火山灰）が舞い上がり、「えりも砂漠」と呼ばれるほどひどい状態であった。その厳しい状況のなか、1953 年に林野庁は、禿山に草を根付かせる「草本緑化」から木を植える「木本緑化」を始めた。

「草本緑化」では、さまざまな試行錯誤の末、強風と戦いながら地面をならし、種子と肥料を播き、その上を海岸に打ち上げられた海藻類で覆い、種子や肥料が飛散するのを防ぐ「えりも式緑化工法」と呼ばれる画期的な方法が開発され、1970 年には禿山にある国有林 421ha のうち、192ha が草本によって緑化された。

草本によって表土を安定させながら、併せてクロマツ、アキグミなどの治山用樹種の植栽が行われたが、本州の海岸林造成を参考にして植栽面積の拡大に努めたものの、えりも岬特有の厳しい気象条件のもとでは必ずしも植栽は成功しなかった。積雪が少なく、冬期間の表土の凍結や一年を通じての強風地帯であることから、樹木の枯れる確率も高く、緑化は困難であった。

図 10-4 カシワの木



出所：北海道そのへんの花

図 10-5 緑化事業開始前（1953）



出所：北海道森林管理局 HP

図 10-6 えりも式緑化工法



出所：北海道森林管理局 HP

図 10-7 現在の風景



出所：北海道森林管理局 HP

反省と失敗を繰り返し、1962 年以降は無造作に新しい植栽面積の拡大を急ぐことなく、着実に成林が期待できるように、暴風垣の設置や枯れた箇所への補植が行われ、2013 年には 193ha の木本緑化が完了した。立派な森林として蘇ったのである。

草本緑化をほぼ終えた 1970 年から魚介類の水揚げ量も急速に伸び始め、1965 年の 227t に対し、2013 年には 1407t になった。昆布の品質も著しくよくなり、地域の活性化に繋がることになった。2009 年には天皇陛下も訪れ植林されたクロマツを見学された。岬にある歌碑には、えりも岬緑化事業に関わった人々の苦労を偲んだ歌が刻まれている。

このえりも岬の緑化事業は 1953 年から 2013 年に至るまで約 47 億円もの費用がかかった。緑化事業は国土を形成するにあたって重要な基盤になり得るが、長い年月と苦労、また、費用がかかることも心に留めておきたい。

図 10-8 えりも岬の歌碑



出所：歌碑を訪ねて

10.2 ゼニガタアザラシ

10.2.1 ゼニガタアザラシの概要

ゼニガタアザラシは、アザラシ科ゴマフアザラシ属に属する海棲ほ乳類である。日本沿岸に定住する唯一のアザラシで、北海道東部に北海道東部の沿岸から千島、アリューシャン列島（アメリカアラスカ州）にかけての岩礁帯に生息するアザラシである。日本で見ることのできるアザラシは 5 種類いるが、このゼニガタアザラシは唯一定着性があり、えりも岬、道東の大黒島周辺の岩場に生息している。特にえりも岬は、北海道全体で確認できた約 1000 頭弱のうち多くが暮らしている。また、繁殖に流氷を利用しない唯一の種でもある。

図 10-9 ゼニガタアザラシ



出所：札幌市円山動物園 HP

体長・体重はメスの成獣で 120-170cm、50-150kg、オスの成獣で 150-200cm、70-170kg になる。黒地に白い穴あき銭のような斑紋を持つのでこの名前が付けられた。体の色には暗色型と明色型があるが、日本に生息している個体はほとんどが暗色型である。新生児の産毛は母の胎内で白い産毛が抜けてしまうので、大人と同じ銭型模様で生まれてくる。これは他のゴマフアザラシ属のアザラシが氷上で出産するのに対し、ゼニガタアザラシは岩場で出産するため、大人と同じ銭型模様であるほうが天敵に狙われにくいという利点がある。出産は 5-6 月で、寿命はオスで約 20 年、メスで約 30 年である。

10.2.2 アシカとの違い

アザラシとアシカはよく似た見た目をしている。しかし、よく見てみると特徴の違いははっきりしている。表 10-2 は両者の相違点をまとめたものである。

表 10-2 アザラシとアシカの特徴

	アザラシ	アシカ
科	アザラシ科	アシカ科
耳	耳たぶは無いが目の横に耳の穴がある。  出所：Wikipedia	耳たぶが外側についている。  出所：ふらここ。。。の徒然ブログ
前ヒレ	前ヒレに 5 本のかぎ爪がついている。	かぎ爪はついていない。
毛	模様があることが多い。	模様は無い。
泳ぎ	後肢が発達しており、泳ぐ際には前肢は体側に添えるのみで、左右の後肢を交互に動かして推進力を得る。速く泳ぐことができる。	後肢に比較して前肢が発達している。泳ぐ際の主たる推進力は前肢から得て左右の前肢を同調させて泳ぐ。速くは泳げない。
陸上の移動	後肢を前方に折り曲げることはできず、前肢はあまり発達していないので、前肢を補助的に使いながら全身を蠕動させイモムシのように移動する。	後肢を前方に折り曲げ、主に前肢を使って陸上でも比較的上手に移動できる。
生息域	海、淡水、汽水湖	海

出所：Wikipedia とアザラシとアシカのみわけかたより筆者作成

10.2.3 漁業被害

えりも岬の漁師たちにとってゼニガタアザラシは必ずしもよい存在ではない。アザラシが岬に生息することによっての漁業被害が問題になっている。

北海道に住む人々は昔からアザラシの肉や、毛皮を重要な資源として扱っていた。しかし

生活が豊かになってくると食べる必要は無くなっていき、漁業に手を伸ばすことになる。アザラシは増加する一方であり、重要な漁業資源であるサケに被害を及ぼすようになった。

ゼニガタアザラシの生息数は、1940 年当時に 1500-4800 頭と大まかに推定されている。しかし、1960-1970 年には 600-900 頭まで減少したとされる。その原因は、乱獲、アザラシの上陸場の消滅、漁船や調査船による上陸の妨害、漁業の定置網に迷い込むことによる混獲、コンブ漁場確保のための岩礁爆破作業などが背景にあるという指摘がある。1973 年にはゼニガタアザラシを国の天然記念物に指定するための運動が研究者を中心に始まった。それに対し、地元の漁業関係団体からは、威嚇射撃の容認、間引きの実施、漁業被害の補償などが要求された。当時は漁業関係者を中心にゼニガタアザラシを漁業の害獣とみなす風潮が強かったためである。保護は進むことなく、1970 年代から 1980 年代にかけての生息数は約 350 頭と推定され、絶滅の危機に瀕する状況が継続していた。

1980 年代になると文化財に指定する目的と漁業との共存が始まった。1990 年にはえりも町で「えりもシール・クラブ」が発足し、日本最大の生息地襟裳岬でどうやってゼニガタアザラシと共存共栄できるかを模索していくようになった。努力が実り、ゼニガタアザラシに対する行政の認識も変化し、環境庁（当時）が 1991 年に発行した『日本の絶滅のおそれのある野生生物』では危急種に指定され、1998 年のレッドリストでは絶滅危惧 IB 類 (EN) に指定された。水産庁でも独自のレッドデータブックにて危急種に選定している。

表 10-3 環境省版レッドリスト

絶滅 (EX)	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧 IA 類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧 IB 類 (EN)	IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域 個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

出所：環境省 HP より筆者作成

その後、2000年代になると1980年代から上陸場の数は増えていないものの、個体数は増加傾向をみせ、ゼニガタアザラシ研究グループの調査によれば2004年には約900頭の生息が確認されるようになった。このように個体群が安定してきたことから、2012年の環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類（VU）に引き下げられた。そして、2015年現在、準絶滅危惧（NT）にさらに引き下げられている。

2016年1月12日、環境省は、えりも地域におけるゼニガタアザラシ個体群と沿岸漁業を含めた地域社会の共存を図るため、地方公共団体、地元漁業者、有識者等との検討を踏まえ、「えりも地域ゼニガタアザラシ特定希少鳥獣管理計画（案）」を取りまとめた。現在これについて市民の意見を求めるパブリックコメントが実施されている。

10.3 風の館

10.3.1 カルマン渦とは

カルマン渦とは強い風が、細い枝など円柱状のものに当たったとき、その風下側にできる規則的な空気の流れの渦のことである。実際に、この空気の消滅のサイクルによってピューと音が鳴る。

風の館は、周囲の景観や植生に考慮し、また、すぐ隣に岬灯台があるため、灯台の明かりを遮らないようにということで、地下に埋もれるような形で、設計されている。風の館は、風が作る「カルマン渦」をシンボルに、建物全体も「カルマン渦」をイメージして作られている。



図 10-10 風の館

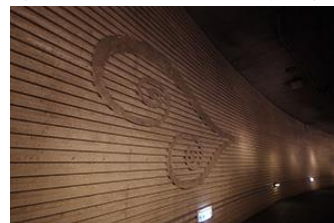
出所：襟裳岬 風の館

10.3.2 施設紹介

① エントランスゾーン

風の館の入り口に入ると、館内にはカルマン回廊がつづく。この回廊では、カルマン渦のピューという音を聴くことができる。

図 10-11 カルマン回廊



出所：襟裳岬 風の館

カルマン回廊を抜けると、螺旋階段のある小さなホールに出る。この螺旋階段の上には、古代ギリシャの伝説の楽器、エオリアンハープが風の音を奏でている。ここは、襟裳岬展望台からの、もう一つの入り口であり、岬の景色を眺めてから、風の館へ入ることも可能である。

図 10-12 エオリアンハープ



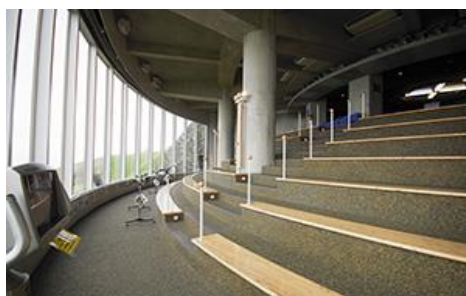
出所：襟裳岬 風の館

図 10-13 風のシアター



出所：襟裳岬 風の館

図 10-14 展望襟裳岬



出所：襟裳岬 風の館

② 風のシアター

風のシアターでは、自然写真家である倉沢栄一さんの撮影した「アザラシの棲む岬」を上映している。ゼニガタアザラシの生態、コンブ漁、サケ漁などを紹介しており、アザラシの水中映像は必見である。

③ 展望襟裳岬

風の館には、展望台も設置されており、天気がいい日には望遠鏡で野生のゼニガタアザラシを見ることができる。ゆっくりとした時間を展望台で過ごしてはいかがだろうか。

④ えりも風体験

風体験コーナーでは風速 25m もの強風を体験できる。真っ直ぐ立つことが難しいくらいの風はぜひ体験してみてほしいものである。

図 10-15 風体験の様子①



撮影者：工藤優

図 10-16 風体験の様子②



撮影者：工藤優

参照 HP

- ・アイヌとエリモ 襟裳岬 HP

http://educ.erimo.hokkaido.jp/pirkanoka/pirika_top/ainu&erimo.html

- ・アシカとアザラシのみわけかた

<http://homepage2.nifty.com/gomasuke/teatime/1999/13-asika.htm>

- ・Wikipedia 「アザラシ」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%B6%E3%83%A9%E3%82%B7>

- ・Wikipedia 「襟裳岬」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A5%9F%E8%A3%B3%E5%B2%AC>

- ・Wikipedia 「ゼニガタアザラシ」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BC%E3%83%8B%E3%82%AC%E3%82%BF%E3%82%A2%E3%82%B6%E3%83%A9%E3%82%B7>

- ・襟裳岬 風の館

<http://www.town.erimo.lg.jp/kaze/index.html>

- ・歌碑を訪ねて

<http://www1.toptower.ne.jp/users/ht1/ihttps://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BC%E3%83%8B%E3%82%AC%E3%82%BF%E3%82%A2%E3%82%B6%E3%83%A9%E3%82%B7index.htm>

- ・環境省 HP

<http://www.env.go.jp/index.html>

- ・気象庁 HP

http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/nml_amd_ym.php?prec_no=22&block_no=1340&year=&month=&day=&view=

- ・札幌市円山動物園 HP

<http://www.city.sapporo.jp/zoo/>

- ・ふらここ。。。の徒然ブログ

<http://ameblo.jp/536059-japan/entry-11983906287.html>

- ・北海道えりも町郷土資料館 「ほろいずみ」・水産の館

<http://www.town.erimo.lg.jp/horoizumi/i3iqro00000001g6.html>

- ・北海道森林管理局 HP

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/square/index.html>

- ・北海道そのへんの花

<http://hhana.biz/>

- ・北海道ラボ

<http://hokkaido-labo.com/erimo-cape-5486>